



発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

「わたしは戒めを守って、命を得よ」(箴4:4)、「わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな」(箴1:8)、「諭しを愛する人は知識を愛する。懲らしめを憎む者は愚かだ」(箴12:1)など、箴言にはそんな珠玉の言葉が散りばめられている。それは、現代においても、今を生きる私たちにとつても心に響く言葉となっている。しかし、私たちはいつもその光を見失い、道を誤つてばかりいるのではないだろうか。情報は溢れ、価値観は多様化し、人工知能(AI)で造られたものは、それがフェイクなのかファクトなのか、見分けることは困難を極める。一体何が正しくて、何が間違っているのか——

本当にもうわかなくなってしまう今の世の中。昔のように、道には灯りがなく、月や星を目標に歩いてきたのどかな世界が、今やまぶしすぎるほどのネオンサインとして、あちこちに光を放っている。そして私たちは、まるで誘蛾灯に導かれるように、その道を外れていってしまうのだ。いや、もう外れていくことさえ、気づかぬままに。

瞑想

戒めは灯、教えは光。  
懲らしめや諭しは命の道。

かつてイエスのもとに、一人の青年が訪ねてきた。彼はきつと、育ちのいい、裕福な好青年であったのだろう。幼いころから戒めも教えも、懲らしめも諭しも受け、自他共に認める理想的な人物であったのだろう。ところが、そんな彼にも一つの大きな悩みがあった。それは、「永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか」(マルコ10:17)という、究極の願いであ

った。私など凡人には思いもつかないような願いではあるが、この彼の問いで興味深いのは、永遠の命を「受け継ぐために」何をすればよいかと問うたことである。彼は、永遠の命とは受け継ぐべきものであると考えた。そしてそのためには、神の戒めを守らなければならぬと、懸命に生きてきたのである。それはちょうど、「我々の父はアブラハム

主幹牧師 榎本 恵 (箴言6:23)

だ、などと思つてもみるな」(マタイ3:9)と強い口調で、悔い改めのバプテスマを授ける洗礼者ヨハネのもとに集まってきた人々のように、彼は「善い先生」とイエスのもとに尋ねてきた。そういう意味では、彼はまさに真面目な求道者であった。自分には何か足りない、何かを加えなければ、それを受け継ぐことができな

い。彼の持つていた知識は、永遠の命さえも、何かをしなければ手に入れられないものであったのだ。ところがイエスは、そんな彼をじつと見つめ、こう答えられる。「あなたに欠けているものが一つある」(マルコ10:21)と。そして続けて、「行って持つているものを売り払い、貧しい人々に施しなさい。(中略)それから私に従いなさい」(同)と。イエスは、彼のその持つて一切を捨ててしまえと言ったのだ。受け継ぎたいと願うことさえも捨て、従うことを命じたのだ。「無」物中無尽蔵(いつさいを捨て去った時、無尽の豊かさがそこにある)。何かを得ることでなく、すべてを手放すことでしか得ることのできないものがある。友よ、パウロは、憐れみによってしか救いのないことを、感嘆してこう手紙の中で叫ぶ。「ああ、神の富と知恵のなんと深いことか。誰が神の定めを極め尽くし、神の道を理解し尽くせよう」(ロマ11:33)。私たちは、足りないのではなく、多く持ちすぎている。戒め、教え、懲らしめ、諭し。それらは皆、たった一つの命の道を示しているのだから。

# 沖縄巡礼の旅に参加して



土屋 聡

1 平和についてきちんと言葉で捉えておくことが大切だと思いません。

伊江島では市民の半分の人が死に、沖縄本島では三分の一の人が亡くなるという犠牲者の多さに驚いてしまいました。沖縄戦で多くの命が失われたのは、本土決戦の時間稼ぎや国体の護持のためでした。また、皇民化教育によって「お国のために命を捨てよ」と教え込まれた結果、女性も自分の命を犠牲にしてもお国のために戦った話を聞き、教育の恐ろしさを知りました。

今、私は、平和について言葉できちんと捉えておくこと、平和について自分の考えをはっきり持つておくこ

とは、政治家が再び戦争を始めようとするときの巧みな言葉に騙されないために、また世の中の風潮に流されな

いために大切だと思いません。「戦争とはなにか」「平和とはなにか」を正しい言葉で自分の頭にしっかり捉え、平和を守るために意識して生きていなくてはならない。また、歴史(近代史)を学び直して、政治家が再び戦争を始めないように鋭い感性で注意して生きていく必要を感じました。

私は、ヌチドウタカラの家や団結道場を訪ねたことで、平和を守るために大切な宝の言葉を沢山頂くことができ、感謝しています。以下は、平和を守るために私の宝となった言葉です。

● 平和の最大の敵は無関心である。戦争の最大の友も無関心である。

● 戦争は誰を守るために、誰が命令して、誰が殺し合いをさせられるのか歴史を学ぼう。

● 武器を必要とし、戦争を作り出す人にも、この服を着てもらいたい。(傷ついた軍服)

● 過去を忘れる者も一度それを繰り返す。(広島を忘れるな、長崎を忘れるな、沖縄を忘れるな、伊江島を忘れるな)

● 剣を取る者は剣で亡ぶ(聖書) 基地を持つ国は基地で亡ぶ(歴史)

● 平和とは人間の生命を尊ぶこと。戦争とは人間の生命を虫けらのように粗末にすること。

## 2 現地に立ち、実感することができた。

今回沖縄巡礼の旅に参加して、戦跡を目の前にし、自分の足でそこに立つときに深く心

に突き刺さるものがありました。

沖縄戦の時、連合軍による艦砲射撃によって一部が吹き飛び、大きな傷が残った

「首里教会の十字架」、そして伊江島の公益質屋跡にも砲弾によって「複数の穴が空けられたコンクリートの壁」がありました。それらは、ウクライナやガサの建物がミサイルや砲弾で破壊されていく映像と重なりました。

80年前、艦砲射撃により大砲の弾が雨のように飛んできた恐ろしい場所に、今、私は立っていることを実感しました。生身の人間が大砲の弾を食らったら

ひとたまりも無いと思うとき、戦場の恐ろしさを感じました。

第二外科壕の慰霊祭に参加し、80年前、傷



旅の最終日、糸洲第二外科壕跡地にて、慰霊祭、多くの方々と共に。

病兵の看護や治療に当たっていた現場に立つことも出来ました。第二外科壕は、道路から少し登ったガジュマルの木が生い茂る土の斜面に壕の口が開いていました。当時の様子が今も残る壕であると思われました。この狭く暗い壕の中で、多くの軍医や看護婦、そしてひめゆりの生徒達が傷病兵の手術や治療、手当てに当たり3ヶ月間も過ごしていたこと、また、危険な壕の外に出て水汲みや炊事をしていたことを思うとき、その過酷さを感じました。

この壕も最後には連合軍によって包囲され、脱出困難なまま火炎放射器や手榴弾、毒ガスなどの攻撃を受けて、壕内で多くの方が亡くなったそうです。放置されていた遺骨は、一灯園の石川洋先生が京都から通って収拾され

た。そして、収拾した遺骨を丁寧に洗われていたと聞き、石川先生には頭が下がりました。

3 終わりに  
今回、沖縄巡礼の旅に参加することが出来、観光だけの沖縄旅行では行くことができない所に行けたこと、味わえたことは、榎本恵先生が長く伊江島に住み、人間関係を築いて来て下さったからだと思ひ、恵先生に感謝しています。

私は「平和は人間の命を尊ぶこと」であると捉え、再び戦争が始

沖繩巡礼の旅 2025に  
参加して

築山 崇

し上げます。

今回の旅を率いて頂いた榎本恵先生、事務局の榎本光太さんはじめ、お世話になった皆様にあらためて感謝申

まらないうように祈りつつ、政治家に騙されて、平和を失い命を失うことがないように、命を大切に過ごしていきたいと思ひます。

(無教会千葉集會)  
トオカリナ演奏  
ご奉仕

き合った4日間でした。サマリア人病院、伊江島、首里、そして糸満の教会、山内光子講演会、第二外科壕など、それぞれの出会いでは、命の尊厳、戦争を起ささない力、人格の疎外と陶冶などについて問いを深める機会となりました。

悲惨な地上戦を体験し、戦後は長く米軍の占領下に置かれ「復帰」後も基地の島として多くの苦難に直面してきた沖縄の今を、痛みと満身の怒りをもって告発された謝花さんの目は、「あの悲惨な戦争を二度と起こしてはならない」という感性の叫びとして私の心に映るとともに、「防衛」という名のもとに戦争へと進もうとする力学に対抗するた



わびあいの里にて、お話しくださった謝花悦子館長と。



旅の2日目、伊江島わびあいの里、阿波根昌鴻氏作の平和資料館にて。写真左、築山氏。

めに何が必要なのかを考えよと迫るものでした。

社会科学の研究者として、「理解・認識の世界の住人」である私達が、感性の力、その価値をあらためて感じる事ができたのは、信仰のコミュニケーションにあつてこそなのかもしれません。

築山広子姉(この旅にほぼ毎年参加)のお連れ合い。(病治療中の広子姉 介助のため)

# アシュラムセンターを訪ねて 2

鄧 永晴(ながは)

この数日間、光太さんご家族やアシュラムに関わる皆さんから、温かいおもてなしを受けました。それはもはや「温かい」を超えて、「まるで家族のように迎え入れられた」という感覚でした。私が特に感動したのは、皆が互いのことを自分のことのように受け止め、心から耳を傾け、折り合い、そして信頼し合っ

て、自分が最も弱くて、気遣われていたことを打ち明けられることです。ここでは誰も、たとえ牧師であっても飾る必要がありません。私たちは正直で、弱くてもよいのです。そして、自分らしく自然に生きられることに、安堵と癒しを感じました。こんなにも親密な交わりができることに驚きつつ、主にあつて人と人

とがこんなにも純粹に見守り合えるのだというのを、改めて考えさせられました。

台湾でのいつもの生活に戻った後も、私はよくテゼ(フランス)の黙想に行ったときのことを思い出します。あのとき修道士が参加者に語った言葉——「最初にあなたの心の中で燃え上がったものを思い出し、それを日常生活に持ち帰ってください」——が、今も心に残っています。

日常から離れた静かなリトリートの中では、普段とは違った多くの気づきや感動を得ることができます。でも一番大切なのは、忙しい日々に戻ってもなお、主を見上げ、親しく歩み続ける信仰を保つことだと思えます。

神様が私と母をアシュラムの皆さんに出会わせてくださったことに感謝します。そして、私たちが迎える春夏秋冬のすべての季節に、神様の導きがありますように。希望を持って、心配せずに歩んでいきますように、心からお祈りしています。(おわり)

在這幾天裡，我們受到光太先生一家還有所有愛修會參與者的熱情款待，已經不僅僅是熱情了，而是完全被當成家人，賓至如歸的感覺。這幾天讓我深深感動的是每個人都將彼此的事當成自己的事，完全地傾聽和代禱，也信任彼此把最脆弱和需要被關心的事情說出來。在這裡任何人包括牧師都不需要偽裝，我們可以誠實而脆弱的，也因為可以自然地活得像自己而感到鬆一口氣。如此親近的交流讓我非常驚訝，也重新思考在主裡面人與人原來可以這樣純粹地彼此守望。

回到台灣平常的生活之後，我常常想起當時去泰潭靈修時，修士對參與者說的話「記得當初在你們心裡燃燒的是什麼，並帶入生活中。」在遠離生活的靜修中，我們往往能獲得很多不一樣的感受。但最重要的是如何在回歸繁忙的生活後，依然有足夠的信心仰望上帝並且與祂親近。謝謝上帝帶我和母親認識在愛修會的各位，也謝謝所有接待或為我們代禱的人們，光是遇見你們就很高興了，祝福大家在接下來的春夏秋冬都有神的帶領，帶著盼望，不用擔心！



◀お母様と滞在中、様々なことを目を輝かせて関わってくださった。音楽も大好き！(アンナ祈りの家にて共に賛美)

て、私たちが迎える春夏秋冬のすべての季節に、神様の導きがありますように。希望を持って、心配せずに歩んでいきますように、心からお祈りしています。(おわり)

## アシュラムセンター創立50年記念企画 「今治教会辞任と今後」榎本保郎師 一部抜粋

「そこでモーセは妻と子供たちをろばに乗せて、エジプトの地に帰った。モーセは手に神の杖を執った」出エジプト4-20  
12年余私なりに身血を注いで牧会伝道に当った教会を離れ、親身以上に親しく愛して下さった教会員のもとを出て、新しい地に出て行かんとするにあたり、主の召命とは信ずるものの不安の去来する今日この頃です。そのような私にとって、このモーセの姿は大きな慰めであり励ましであります。アシュラム誌第83号 1975年7月(まだ行く場所も定まっていない時)



◀保郎師とちいろは「ちいろはは牧師アシュラムを語る」より

シメオンの風3 「ラビリスウオーク」

市橋 恵子

シメオン黙想の家の庭にラビリスがあります。榎本光太さんをはじめとする庭造りの専門の方々によって、ラビリスが完成したのは2021年でした。驚くほど多量の石がその方々の忍耐と勤勉さによって夏の暑い日々の中にも一つひとつ並べられていきました。全体は円形ですが、ほぼ均等の大きさに切り揃えられた石がリズムを作るかのように並べられ、曲がりくねった長い道を作り出します。歩き始めるときにはどこが出口なのかわからない。その迷路の入り口に立つときに、私の頭の中に浮かんでくるのは不謹慎にも「The long and winding road」というビートルズのヒット曲です。ポール・マッカートニーがスコットランドの農場にこもって書いたといわれるこの歌のなかで繰り返される「lead me to your door」を頭に浮かべながら。



シメオン庭ラビリス作り。祈りから始まった。2020年5月。

今年（2025年）の晩春に山岡三治神父がシメオン黙想の家を訪問されました。その折に開催された聖書教室で、神父様は訪問の目的がラビリスウオークをすることと話されました。多忙をきわめておられる山岡神父が、時間をとってラビリスウオークをされるというお話を聞いて、自分自身を少し恥じました。なぜなら、私は毎月のようにシメオン黙想の家を訪れているのに、ここ数年ずっとラビリスウオークから遠ざかっていたからです。ラビリスウオークをする足腰が重くなっていた理由を考えてしまいました。

ラビリスウオークは歩く瞑想と言われています。歩くという身体機能、歩きながら風や鳥や虫の声に耳を傾ける。時に立ち止まって足元を見つめる。周囲の木々に目をやる。皮膚に感じる陽の光、走り去る風の涼しさ。自分の身体感覚を総動員しながらも瞑想する時間です。足腰が重くなっていたのは、知らないうちに歩きながらこれまでの人生の来し方ばかりを考えていたからではないかと思いました。主よ、未来の扉に私を導いてくださいと祈りながら、必ず出口にたどりつけるラビリスを再び巡礼したいと思います。

いえじま 雑記 26 「夏の大旅行前！」



伊江島は梅雨が遅れてやってきたかのように連日の雨が降っています。今日も長女のクラスが海岸でレクだったので見守りに行きましたが、子どもたちがようやく海で遊び始めた頃、南東の空から黒い雲がモクモクと近づいてきます。あつというまにあたりは大粒の雨に。海に入っていた子どもたちばかりか、見守りに行ったはずの保護者までずぶ濡れになって帰ってきました。ともあれこれで長かった一学期も終わり。明日は終業式です。私たち家族は一ヶ月ほど祖父母のところで夏を過ごす予定で、子どもたちはもう何週間も前から、荷造りを始めていました。長女によって空港並みの重量制限が次女、三女、それぞれのリュックには課せられているらしく、色えんぴつを持っていくのか、ノートを持っていくのか、人形を持っていくのか、三人は体重計を前にして延々とケンカ、いや話し合っています。果たして我が家は無事、伊江島を出発できるのでしょうか。雲行きは、今日の空のように怪しいとは言わないまでも、予断を許しません。ぜひ皆さまともお会いできれば嬉しいです。

榎本 空（ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住）



静岡聖書教室、午前の部4月。英和女学院宣教師館にて。お住まいの榎戸ご夫妻（左）が喜んで迎えて下さり感謝!!



加古川祈りの家、再開！皆様の祈り聞き届けられ。フリーメソジスト加古川教会にて。小林清子姉も天から共に！次回9/6



ブラジルのアミージ出身、タイで宣教中のご夫妻がご来訪。アベル門宣教師、特製カレーで涙のおもてなし。

熱く激しい選挙も終わり、世の終わりなどと言っていた7月も終わりに近づいた。私は、何事もなく毎日過ごしている。あの騒ぎは一体なんであったのか、そんな思いをされている方も多いことと思う。おそらくこれからも、私たちの耳には、様々な噂話や、人を惑わせる言説が流布することだろう。しかし、私たちは「慌てないように気をつけなさい」（マタイ24・6）との主の言葉にしっかりと立っていかねばならない。日本の政治も、また世界情勢もますます、混乱することだろうが、主はそれを天から見守られている。どれだけの人が支持しているのか、またどんなに勢いがあるのか、私たちにいつも人馬の数を気にし、恐る。しかし、「馬は勝利をもたらずものではない、兵の数によって救われるのでもない」（詩33・17）。ただ、主の約束を信じ、祈り、み言葉に聞いていくものとしよう。アシラムセクターでは、いよいよ来年の第51回の年頭アシラムの場、常任運営委員の修道場アシラムを行う。祈りに覚えていただきたい。

(恵)

あとがき



必ずそこは... 必ずそこは... 必ずそこは...

苦難の時... 苦難の時...

檀子... 檀子...

8月15日は、和子母、召天記念日です

中止、又はオンラインに変更もあり。ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり!

【主な問い合わせ先】0748-33-4030 アシュラムセンター  
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080-3983-8140

8月~9月始めの聖書教室など

Table with 2 columns: Date, Event Name. Includes 24th, 9/2, 9/5, 9/6 events.

8月のアシュラムなど

Table with 2 columns: Date, Event Name. Includes 8/9, 10, 25/27 events. Includes a rabbit illustration.

9月のアシュラムなど

Table with 2 columns: Date, Event Name. Includes 14/15, 15, 19/20, 24/25, 27 events.

10月以降のアシュラム予定

Table with 2 columns: Date, Event Name. Includes 10/9, 10/11, 10/21, 10/25, 11/3, 11/22, 11/24, 2026/1 events.

献金のお願い (特に創立50周年のために!)

皆様のお祈り、お支えに感謝いたします。引き続きお祈りごとく献金をお願い申し上げます。

キャッシュレス献金はこちらのQRコードまたは「オンライン献金.com」と検索ください。アシュラムセンター運営 記号番号 01050-6-53772



みことば



日本キリスト教団 豊島岡教会 南花島集会所 牧師 江口公一

5章「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。」(IIコリント5:18)

和解なんて無理。この世の和解と信仰の和解は違うと言っても、それは理想で現実が違う。互いに謝罪し合うなら良いが、相手が示す話し合いの条件や謝罪要求にこちらだけが応じ続ける事はできないし、するべきでない。和解しなくても別々にやって行ければ良い。和解の困難さに私達は嘆き、しばしば諦めの境地に至ります。

しかし、聖餐では、キリストの体であるパンを裂いて食します。それは、私達の罪によって十字架にかけられ肉を引き裂かれて死なれたキリストの体を食する事です。「その一人の方はすべての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自信のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きる (IIコリント5:15)」為なのです。

そのイエス様は十字架でご自分を断罪する者の為に祈られました。「父よ、彼らを赦し給え。自分が何をしているのか分らないのです。」と。十字架の死に至るまで父なる神に忠実であった神の子の信仰がここに示されています。このイエス様の体を罪の私達が裂いて食する時、十字架に付けられ引き裂かれたイエス様が体に入って私の肉となります。その時、主の祈りで教えて下さり十字架で祈られた「父よ」と呼びかけるイエス様の祈りを私も共に祈る者とされます。私はイエス様に於いて神の子とされています。これが我が事と思えたなら、そこに聖霊が働いています。

信仰は理想であり現実には変えられないのでしょうか。いいえ、信仰は現実を、目に見えない神様の救いの物語の視点で見えるようになります。神様は重荷を負ってうめく私達が地上の住みかを脱ぎ捨てる事なく(5:4)、隣人の和解のために奉仕する任務を授け行方者としてくださるでしょう。嘆きは主と共にあります。隣人との関係はきつと変えられて兄弟が並んで座り礼拝できるようになるでしょう。環境や制度も整えられるでしょう。キリストの信仰によって現実には変えられていくと主にあって信じています。



「早天祈禱会での祈り」 わたしが祈り求めているのは 平和であります。どんなに夜が暗くとも あなたの平和を祈り 求め続け、光り輝く主の家に 住まうことのできる者としてください。(詩27)